THE
NATIONAL
OF
UNITED

GHQ/SCAP Records(RG 331)
Description of contents

(1) Box no. 2323

(2) Folder title/number: (28)
Guard Section

(3) Date: ?

(4) Subject:

Classification	Type of record
9360 (Takefu)	c

(5) Item description and comment:
Jap nese Document

(6) Reproduction: (Yes) No

(7) Film no. Sheet no.

Subject Card

関東地方撃墜王部

1.10

武生市政を繞る暴力團体及其他數個の暴力團体並に追放者の政治活動等の事實に内査について

武才放火事件に端を発し表面化した武生市政を繞る市會議員の各派抗爭を之に発聯した勢力増強した不良分子の行動等について事實内査を進めたが當初市政斗爭に始まったが安相の趣く所感情的斗爭に移行し自己派を有利にするには暴力的背景に如かずとして、香具師、博徒等不良分子を利用するに至り結局に於て逆に之等を跋扈せしめ所謂飼犬にかまれた如き狀態になってる狀況である一方公職追放者の政治活動行人は今迄の処表面化した具体的事項は無い加旧来の勢力分散は考へられず陰に陽に意圖する所が今后に於ても表面化するものと思料さ

れるので同方面への視察強化を為すと共に右翼的人物の動向も注視しているが他に元軍人等の本件分仕は目下の処会々見受けられない。

尚武士市政を続る之等の状況左記（別添）の通りである。

左記

一、武士市政を続る右翼的人物の暗躍と之に奔連する底流

一、新進会の結成と解散に至るまでの経緯

一、高木正二市議の勢力と其後の動向

一、公正会の解散

一、森上市長其后の動向

一、其の他の動き

一、追放者の動向

一、結論

一 別添

イ 武生市議會議員名簿

ロ 各干係者の前科 調

ハ 和田一派の勢力圏

ニ 伊原忠成の勢力

ホ 公職追放者名簿

ヘ 市會議員支援者名簿

ト 各派勢力の圖解

一武生市政を撓る右翼的人物の暗躍と之に関連する底流

イ本件は戦前の既成政党時代に根源を有するもので當時政友會系と民政党系を撓る政事斗争の流れが現在に及んで居り、其の主流となるのは元政友會筆頭総務にあつた山本榮太郎及現民自党長老植原悦次郎の子分とか息のかゝつたもので現在製紙業を経營している俠義心のあると認められる

元町長　加藤勝康

と之と対抗して民政系松井文太郎添田敬一郎元政務次官等の流れを汲む

元代議士元町長　土生彰

とか代議士立候補に因して武生市政の二大主流となっていた状況である。

口. 前記加藤は當時より氏の側近者とし通称鞄持と
いた 森上斉五郎が新聞記者として才能を有してい
から昭和七・八年頃「北陸タイムス」新聞の主筆をさせ政友系
の地方機関紙として反民政党攻撃に當っていたし加藤立
候補當時には参謀として相當活躍し政界往来に森上氏
の手腕が遺憾なく発揮せられていた点を加藤氏は高
く評価していた。

八. 一方土生には現市會議長料理店營業の小野谷喜太
郎が参謀格としてこれに対抗していたが、此の時代には町
會議員としての勢力も微々たるものであり町政としても
見るべきものなく刺へ戦争遂行の為何事も全方向に帰
一されていた関係から内題もなかったが、終戦後自治法の
改正で共に首長選挙となるや俄然、往時の政界斗争行
為が抬頭して来た訳である。

二、當時の町政は市政実施を施かんとしている矢先でもありお初代市長候補として話題となったのは現織物業山本甚平氏は初代にて財を築いた人物だ三郎であった。此の山本氏は一般より納得され敵対する者とてもなかったのであるが之を擁立する人物に県議笠原武けに市民の信望も厚くがある。此の者との間に意見の相違を生じ出馬廿前の今氏をして断念せしめた。

木処で山本は前記加藤と協議の結果か又當時食指の動いていた森上を市長と立候補せしめ出資者として加藤がなり山本は応援者の立場から極力之に努めた。

へ一才森上が立候補したとなると小野谷も又対派として出馬し今氏と関係のあった

元中部日本新聞記者元新福井新聞社長武田太平

二、當時の町政は市政実施を施かんとしている矢先でもあり初代市長候補として話題となつたのは現織物業山甚事山本甚三郎であつた、此の山本氏は初代にて財を築いた人物だけに市民の信望も厚く一般より納得され敵対する者とてもなかつたのであるが之を擁立する人物に現縣議笠原武がある。此の者との間に竟見の相違を生じ出馬廿前の今氏をして断念せしめた。

木処で山本は前記加藤と昵懇でもある処から加藤と協議の結果か又當時食指の動いていた森上を市長と立候補せしめ出資者として加藤がなり山本は応援者の立場から極力之に努めた。

へ、一方森上が立候補したとなると小野谷も反対派として出馬し今氏と関係のあつた

元中部日本新聞記者元新福井新聞社長　武田太平

を駆使して森上を叩かせ一戰を交へたが金力背景の森上が當選したわけである。

ト. 森上には當時より土地の顔役であり香具師の親分であり府中山頭取も勤めている

巡業相手の興行師　木下繁

と交際している関係から之を巧に利用して森上の地位を確固たるものにして行った。

チ. 小野谷氏は市長選に破れたと雖も飽き足らず、次の市議選に出馬し當選、結果議長の地位を占めるため自派抱込みに狂奔し自己と親交のある　高木正二　を利用して議長の地位を占めるに至り市長の施政に対し反対的態度を以て望みつゝあった為此の頃より市政暗斗の兆があらわれ市長派、議長派の対立抗争となったのである。

り. 折も折　元福井市内不良の津田　津原某（雅也）の子分であった

博徒・和田善次が復員後前記高木正二方へ寄偶していたが、木下と知り合う様になり双方と連絡していた。和田は自己の腕力に物言わせ、着々自己の勢力を拡張し不良仲間を自己の圏内へ抱込み、一時は其の勢力は飛ぶ鳥も落すと言われ、風俗営業者や善良な青少年よりはダカツの如く嫌はれていた。

又、此処で木下は和田を利用する為加藤に紹介し森上に引見して自己保全に汲々とするに至った。和田は自己の地位が市政に迄影響するに及びぶのを知り益々増長して森上反対派切崩しの役を受持ち議会再会前後には議員をして威縮せしめる迄に至っていた模様である。

ル、又南越文化協会、元福井新聞記者

市議　大沢　清

は森上の前身當時より知り合ひの処から之又森上派の立役

者となり、木下と組んで市長擁立に懸命となっていた。

オ、一方小野谷としては和田一派の不良徒輩の勢力拡張と共に之とタイアップして元ヤクザ高木正二を利用して之に當らせていたが資金難より勢力ふるわず、和田の勢力配下に手が出なかったと言っても過言でなかった模様である。

ワ、然し森上としては市政独断には高木が目の上のコブの状態であり事毎に反対的となるので、之を懷柔する一方策として高木の事業不振に目をつけ今志をして加藤より約三十万円を融資せしめいる模様だが眞偽の程は不明である。爲に市政に於て市長反対を唱へると森上より加藤を通じて貸借金の返済方請求を爲させて沈默せしめる方法等を講じていたと言う。

カ、小野谷は自己派議員を擁して新進會（別紙）を結成し、和田等の迫害を抗じつゝ、市政を自己に有利に進展せし

めんと之つとめ又市長派は木下・大沢等で公正会を樹立して
之に対抗し中立派抱込みに努めていた。

二 新進會の結成と解散に至る迄の経緯

イ 前掲(一)の如き経緯により新進会を結成し、其鉾先を市長
施政及対抗相當活発に展開すると共に、自己の機関紙
とした「新福井新聞」を利用し、武田太平を動かして今才の
引摺り相當効果を擧げ當初五・六名の市議のみだつ
た新進会も昨年初め頃には議長小野谷以下十七名位
に発達し中立を擁すれば多数派となり市長をして苦慮
せしめつゝあった。小野谷の参謀としては福田石藏がありて相当
程度小野谷に私的に財政援助を為し又小野谷も福田の子分
白根市議の面倒を見る等して居る外高木 青山清次
を利用して自己地盤の確保に努めていた。
ロ 処が昨年春の県議改選に當り小野谷は従来よ

り懇意であり私的に財政的援助も受けた藤井九助を青山と共に擁し投票獲得に努め武田太平を駆使して宣傳之労めさせていた。

八一才高木正二は自己が武生市内に於てバター会社を経営し長谷川政友を社長に推し、自己が副社長におさまっている手伝から、長谷川を推し自己の配下をして之又獲得に狂奔していたので、此の頃から新進会内輪もめの兆を醸成するに至った。

二そうした逐鹿戦の最中（新聞記者が選挙情勢察知に藤井九助選挙事務所を訪れ後援の状況を聴取して行った時に丁度会事務所に居合せた武田太平が今新聞記者に「市会多数派の新聞進会が総て藤井を推している云々」と四囲の状況を考慮せず語った為之を信じた該新聞はデカ〳〵と新聞に登せ、藤井の地位を有利にせしめ

た処が高木に於ては「何事ぞ」と本問題をとり上げ、武田及青山小野谷に抗議し武田をして謝罪文を書かしめ、其の上取消方を新聞紙上へ登才せしめる。せしめないでゴタ〳〵が續いた爲に之が輪をかけた形となり内部に於て紛糾をかもし遂に昨年八月頃新進会を解散し、高木一派九人は民主クラブを（別紙の通り）結成し、福田石蔵一派八名は常盤会を又青山小野谷は中立として此処に多数派を擁しる毎に市政批判に當った新進會も小会派に分散し勢力は互角になった。

三　高木正二市議の勢力と其後の動向

A　高木は元博徒の親分として武生町内に於ては隠然たる勢力を拼す一才仝人は從來より政治方面へのあこがれがあり選擧ブローカー的存在であった干係から仝人を利用する風が拔け切らずる毎に仝人をおだてゝいた爲自然に武生町政に関与する様になっていた。

B. 高木が若かりし頃より小野谷等の援助を受けた干係から小野谷を擁立していたが高木の地盤が次第に築かれて行くと共に博徒より通称足を洗いる業面に手を出し財、政界人と往来する様になり最近は民主党元代議士長谷川政友及武生市内林病院々長林一治と共同出資によりバター會社を創設していた。然し小野谷に帰事するものゝ金权的背景は市長派とは問題とならず運轉資金に苦慮していた。

6. そうする内に元福井市内通称ツー津原雅也（博徒親分）の子分の和田善治が昭和二十一年秋復員し高木方へ寄偶して来た。和田は腕もきくし、睨もある男なので之を利用して凋落にある自己の地位を再建せんとして和田の力を利用し不良分子の親玉に祭り上げて行った。

D. そうする内武生市内で巡業専門の興行師であり、テキヤ仲

尚の親分として當時羽振りを効かした 市議木下繁と和田が眠懇となり交際していたが、木下を通じて市長森上に接近する様になり、加藤勝康を知る様になつた。又反面北陸鉄鋼社長岩堀嘉憲にも木下を通じて交友する様になった。

E. 終戦後の混沌たる世相下に於て不良分子の跋扈は目にあまるものがあった為に之が用心棒としての立場から市政重要人物は和田の存在を寵愛する様になり、和田は武生市内の重要人物として大きくクローズアップされ勢力は日に〳〵増大し不良分子は蝟集して来た為に一時~~親~~歓楽街は之等不良徒輩の往行で灯の消へた寂しさを慨し正に暗黒と言つた状態となり、木下は虎の威を着た狐的存在で市政で羽振りを効かしていたと言う。

F. 一才高木はミイラ取りがミイラになつた形で面白くなく勢力

挽回の機を睨っていたのである。

G. 木下は府中山五代目の頭取りであったが隠退する年でもあるとて今人の後楯である加藤勝康を介し和田に府中山六代を引継ぎ今人との関連性を益々親密にして行った。

H. 一方木下は元新聞記者大沢清を和田に紹介し市議会総務委員長として勢力のある福岡茂作を紹介し暴力背景による市長派の勢力を築き上げて行った模様であった。

I. 高木は其の後自己の圏内にあった福岡茂作が市長派に寝返る筭や衆選後の新進会の内輪もめと共に持付憤やる方なく此の腹いせを市議会に吐露し小野谷筭と共に市長攻撃に當っていたが木下筭は市長の意を汲んでか、和田を利用して小野谷一派に反抗せしめ遂に昨年七月頃新進会が天理教で会合をしている時和田が高木に面会を求めて来たが、此の時些細な事から和田がインネンを

つけて小野谷にドスを突きつけた事があった（本件検挙）。
こうした事も新進会を無きものにするための木下・大沢の動きは大きくこの背後には市長、加藤の差金もあったと巷間伝へられるが真偽の程はわからぬ。

ノ一ヶ市長派公正会の立役者大沢清は何かにつけて会の邪魔物となる高木を無きものにせんとし、加藤勝康にザン言し、和田を利用し高木と意志の疎通を缺かせしめ高木をして益々苦境に陥入れ地位の失墜に迄進展せしめて行ったが之は失敗に終ったので新進会派議員抱込み戦術に移り獲得に努めたが大沢の性質を見抜く之等議員は言を左右にして応じなかった模様。

K高木は目下勢力としては見るべきものはないが一度往時の如に返るとなれば潜在する之等連徒は今人を支持し警察的見解より見ても百名内外はあると思料されるが

団体的存在としては無価値である。

L. 武才事件発生前高木はこうした和田一派の目に余る暴擧に業を煮やし自己又少数の不良分子を擁し護身に當る一才

南越細胞群　墨崎信と交友し暴力による手段と破壊による手段は最後に於てテロリストに帰一する事となり今人（墨崎）にも不良分子の養成を示唆したかの如く墨崎も又之等分子少数人を一時擁していたと言うが内容詳かでない。

M. 武才事件後何れも身の危険を感じてか之等を放棄したものゝ如くである外目下高木は沈黙を持している然し昨年末来武した田島委員長の委員会発表中に事実無根の点があるとて同人を告訴していたとは一本議が調査団を挙とした賣名的行為に外な

らず大した影響はなかった。

四、公正会の解散

前述した通り予長派としての公正会は大沢、木下に引摺れて新進会に対抗して来たが人数に於て差異がある処から和田一派の利用となった所以である。然し予内に於て横暴の非難の声起り予長も一時之を抑制せしめていた矢先武才事件の発生を見たが暴力団を利用したき云々は偏見であると見る者多い。

然し之に影響された公正会は日頃大沢、木下に心良からず思っていた一派との抗争となり昨年十一月中頃正式に之を解散し木下、大沢一派六名を以て睦會を他は民主クラブ常盤会、中立に合流して予政浄化に乗り出している。

五、森上市長其後の動向

森上市長は旧年末来病床に臥していたが最近の心境を

側近者に語る処によると、
「私は六月迄壽命がほしい。講和條約も來春開かれるし、そうなると必ず單独である。それは米國が英國同様中共を承認してもソ連と中共が拒否权を発動するだらうが全力をあげて斗った日本を中國、朝鮮今様ミス〳〵手放す事は恐らくなかろう。必ず他を排しても單独だ。そうなると全國の首長、代議士の改選は必ずある。その時機が本年九月末頃だからその時には衆ギ院に立候補するか知事に出て見たい。小野谷と狭い武生で犬猿の仲であっても発展性がないから将を得んとすれば先づ馬で小野谷や高木を掌中に入れてかゝればわけはない」と暗に参ギ院改選出馬の意志を仄めかしている。

六、其他の動き

(一)縣ギ笠原武は少壮人物であるが元縣青田長を勤

めていた牛仔乃金力等に
小野谷、墨崎等と支友
森上市長の退職にあり
休会開けの本月十八、十九両日
案を叩きつけさせる為
である。然し之に破れた時は市長リコール内
斗わんとしているが本リコールの理由タッチには
(二)墨崎信は高木と自己の線に
胞の確得も出来て来
一部に認められて来ているので
右翼線への確保に乗り出して来ている。
最近秋匿裡に入手した情報によると墨崎は高木の尻
を叩き
「リコールが成功し、吾々の力があづかったとなると

より賞与されるから吾々にまかせてくれ。

君は地位を獲得出来るし、小野谷は市長になれるだと暗に賞与分割に迫持って行こうとして高木をおだてあげ笠原に本音申入れをさせる心算であるらしい。

(三) 此の地位獲得云々とは高木は年来の宿望であるその椅子を占めんとしているものの如くである。

(四) 森上市長退陣の暁をねらって市長候補の出馬意志あるのは

小野谷市会議長。土生滋(現教育委員)

山甚産業社長　山本英非郎

諸氏である。

七、追放者の動向

武生市内の追放該当者は別紙の通りであるが、此内加藤勝康は私的財政の蔭の援助者として兎や角

の風評があるが詳細である。然し団の質問に言葉をすべらした如く

「森上より市政の報告を受けている云々」と洩していた如き程度であるが、之等の者は何れも表面に出たる実なく追放者行為の事実認証に迄は立至っていない。

八 結論

武生市政を聾断した云々の記事は一部記者の偏見であり暴力による市政左右も一々事実を指摘するとなると中々困難である。然し暴力団と強いて言わんとすれば、和田一派の介在であり、之と武才事件とを結びつけて見る事も又余りに専断過ぎる事と思う。

結局に於て武生市民性の他を利用して自己の地位を得んとする風潮と自己が良い子にならんとする狭少心理の因で所謂我身で咽喉をしめた形となった結果である。

武生市議會議員名簿

席次	氏名	住所 電話番號	職業	年令
1 △	山田淺治郎	東元町 電五〇一	土建	50才
2	橋本茂右エ門	池ノ上町 電呼一〇五	農場兼養命長	69才
3 △	矢佐弥一	加町 電二二八	木材	53才
4	林泉	幸町 電三〇町	旅館	39才
5 ○	玉野新之助	緑町 電三八二	木工	45才
6 □	増田五三郎	有明町 電五二〇	浴場	58才
7	西野研治	北吾妻町 電四〇五	料理	54才
8 □	藤井惣吉	荏町 電二〇町	油販賣	58才
9	小野谷喜太郎	蓬來町 電六九	料理	59才
10 ○	寺田常吉	深草町 電六四一	機業	66才
11 △	木倉政治郎	蛭子町 電呼三六七	敎員	42才
12 ○	川端幸治	上市町 電五五五	自轉車	36才
13 ○	梅原梅太郎	広瀬町 電九八二	瓦製造	46才
14 □	関榮治郎	南五ノ壱町 電呼一〇二	木材	47才
15	笹我清藏	北五ノ壱町	資源回收	15才

席次	氏名	住所 電話番號	職業	年令
16 ○	伊藤喜一	春日町 電七〇七	会社々長	50才
17 △	木下繁	蓬來町 電六五九	興行師	54才
18 △	大沢清	本田町 電三七七	南越文化	41才
19 ○	高木正二	蓬來町 電四四五	会社重役	47才
20	高橋初吉	常久町 電三二二	木材	48才
21 ○	土谷六右エ門	高瀬町 電六五七	鉄工業	48才
22 ○	高木喬	幸町 電六五四	料理業	47才
23 □	福岡茂作	尾花町 電呼五二一	〃	48才
24 ○	高嶋重政	北吾妻町 電六二三	木工業	41才
25 ○	松戸一男	末廣町 電一〇一五	會社重役	39才
26	青山清次	京町 電四四一	ラヂオ商	50才
27 □	白根仁太郎	蓬莱町 電二二一	印刷業	60才
28	土井馬治郎	浪花町 電六五八	料理業	59才
29 □	福田石藏	旭町 電四二一	味噌醤油業	59才
30 △	山本六右エ門	松森町	会社員	53才

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	
嵯峨清藏	関榮治郎	梅原梅太郎	川端幸治	木倉政治郎	寺田常吉	小野谷喜太郎	藤井惣吉	西野研治	増田五三郎	玉野新之助	林泉	
北五十妻町	南五十妻町 電呼一〇一二	広瀬町 電九八二	上市町 電五五五	蛭子町 電呼三六七	深草町 電大四一	蓬来町 電大九	荏町 電二〇	北吉妻町 電四〇五	有明町 電五二〇	緑町 電三八二	幸町 電三〇	
資源回收屋	木材	瓦製造	自轉車	教員	機業	料理	油貝賣	料理	浴場	木工	旅館	
65才	47才	46才	36才	42才	66才	59才	58才	54才	58才	45才	39才	
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	
山本文右ヱ門	福田石藏	土井馬治郎	白根仁太郎	青山清次	松戸一男	高嶋重政	福岡茂作	高木喬	土谷六右ヱ門	高橋初吉	高木正二	
	松森町	旭町 電四二一	浪花町 電六五八	蓬莱町 電二二一	本所 電四〇一	北吉妻町 電六二三	尾花町 電呼五二一	幸町 電六五四	高瀬町 電六五七	常久町 電三二二	蓬来町 電四四五	
会社員	味噌醤油業	料理業	印刷業	ラヂオ商	會社重役	木工業	〃	料理業	鉄工業	木材	会社重役	
53	59	59	60	50	39	41	48	42	48	48	47	

【註】
○ 〃 民主(政)クラブ
□ 〃 常盤會
△ 〃 睦會
— 〃 中立

口

前科

一 伊藤喜一

Ⓐ 武生巳才判所に於て昭和五年十月二十一日 詐欺にて 豈役一ヶ年

Ⓑ 名古屋巳才判所に於て昭和九年六月二十二日 詐欺にて 豈役一ヶ月

昭和十七年勅令第九十四号により復权

二 向根仁太郎 Ⓐ 武生巳才判所に於て大正十年四月十四日 賭博罪にて罰金二十円

昭和九年勅令第二十号により復权

三 十野石喜太郎 Ⓐ 武生巳才判所に於て大正十年三月十五日 賭博 罰金二百円

昭和九年勅令第二十号により復权

Ⓑ 名古屋控訴造に於て昭和十六年九月二十二日 業務上横領

收賄にて 豈役三ヶ月 三ヶ年執行猶予し

四 高木正二

Ⓐ 武生巳才判所に於て大正六年六月十六日 賭博 罰金四十円

Ⓑ 福井巳才判所に於て大正九年七月二十三日 建物破壊 家宅侵入傷害 豈役六ヶ月

Ⓒ 武生巳才判所に於て大正十一年二月十三日 賭博 豈役三ヶ月

Ⓓ 〃 〃 大正十一年四月十一日 常習賭博 豈役三ヶ月

Ⓔ 〃 〃 大正十四年七月十一日 傷害 罰金五十円

(五)武生區裁判所ニ於テ昭和八年三月十七日公務執行妨害罪ニ
ヨリ懲役十月ニ處セラレ昭和十年十月一日福井地方裁判所
武生區裁判所ニ於テ昭和十年三月十日賭博罪ニヨリ罰金
三十圓ニ處セラレ昭和十年三月十日右何レモ確定シタル者
(六)青山清治ハ(A)名古屋控訴院昭和十年三月十日賭博罪ニヨリ
懲役二年ニ處セラレ昭和十三年三月二日右刑ノ執行ヲ猶予
セラレ(B)名古屋控訴院昭和十三年三月二日賭博罪ニヨリ罰金
三十圓ニ處セラレ昭和十三年三月二日右何レモ確定シタル者
(七)松尾一男ハ(A)鳥取ニヨル詐欺罪ニヨリ罰金二十圓ニ
處セラレ(B)福井區裁判所大正五年二月十日賭博罪ニヨリ罰金
三十圓ニ處セラレ(C)福井區裁判所大正十年三月八日賭博罪ニヨリ
罰金三十圓ニ處セラレ(D)武生區裁判所昭和十年三月十日賭博罪
ニヨリ罰金三十圓ニ處セラレ昭和十年三月十日右何レモ確定シタル者
(八)寺田常吉ハ(A)福井區裁判所大正五年二月十日賭博罪ニヨリ
罰金二十圓ニ處セラレ(B)名古屋控訴院昭和六年三月二日賭博罪ニヨリ
罰金三十圓ニ處セラレ(C)〃昭和三年四月二十六日不法逮捕逃葉罪ニヨリ
重禁錮四月ニ處セラレ(D)武生區裁判所昭和十年三月十七日賭博罪ニヨリ
罰金四十圓ニ處セラレ昭和十年三月十七日右何レモ確定シタル者
(九)木下繁ハ(A)武生區裁判所大正十年三月八日傷害罪ニヨリ重禁錮
三月ニ處セラレ(B)名古屋控訴院昭和六年三月二日賭博罪ニヨリ罰金
三十圓ニ處セラレ昭和六年三月二日右何レモ確定シタル者
(十)渡栄治ハ(A)昭和三年三月七日食右法違反罪ニヨリ罰金三円ニ
處セラレ(B)武生區裁判所昭和三年七月六日物價統制令違反罪ニヨリ罰金一円ニ
處セラレ昭和三年七月六日右何レモ確定シタル者
(十一)井上勝治ハ(A)武生區裁判所昭和三年七月六日賭博罪ニヨリ罰金
三圓ニ處セラレ昭和三年七月六日確定シタル者

東北府市町二四　加藤勝康　明治二十年生

Ⓐ名古屋控訴院　昭和十三年六月二十日　衆議院選挙法違反　禁錮十月

五年間執行猶予

二　幸町　前田栄雄　明治四十年生

Ⓐ福井簡易裁判所　昭和二十三年四月三十日　物価統制令違反　罰金二万円

三　幸町五一　麦卜斉五郎　明治二十八年生

Ⓐ福井地方裁判所　昭六年二月二十八日　濃職　罰金百二十円

Ⓑ　〃　昭八年九月二十二日　恐喝　出役一ヶ月

Ⓒ武生区裁判所　昭十年十二月十三日　縣会議員選挙罰則違反

法年百二十九条　罰金二十円

Ⓓ名古屋控訴院　昭和十三年七月十六日　衆議院議員選挙法違反

法年百十二条　罰金一円五百円

八、和田善治事和田春吉の勢力

九圏

一、武生市北深草町　和田善治事

武生興行社々長　和田春吉　当三十八年

二、武生市北府町　光風事

武生興行社々員　渡辺彦　当二十七年

三、大阪生れ

無職　柳生義成　当二十一年

四、鯖江町

無職　佐藤勇　当二十二年

五、武生市中北府町

無職　坂詰三男　当二十四年

六、武生市中北府町

無職　内山正栄　当二十四年

七、武生市桂田　山口竜男　当二十六年

武生興行社々員

八、武生市吉野田　川西準一　当二十六年

無職

九、鴉井市日見田　矢部　斉　当十九年

無職

十、武生市並木田　浅井彦一　当二十五年

洋今修理業

十一、武生市中北府田　倉田栄次　当二十八年

無職

十二、粟田部田　神戸敏次郎　当二十四年

無職

十三、粟田部田　武田勉　当二十年

無職

二、伊原忠成事　田聖熙の勢

右圖

一、武生市幸丹　伊原忠成事　田聖熙　当三十八年

二、武生市幸丹　中井事　車東守　当二十五年

三、國高村村國　酒井正作　当十九年

四、武生市北深草丹　澤田仁美　当二十年

五、武生市幸丹　山本武男事　催鎮亮　当二十五年

六、武生市栄丹　南越　濱汝　西居仙太郎事　李丙伍　当二十九年

國家地方警察福井縣本部

七和歌山縣生れ

無職

太田近子当二十三年

小公職匠放者名簿

代名	住所	年月	匠放理由	備考
中西敏寛	武生市廣瀬町	五七	南滿州鉄道株式會社理事	該当決定 昭和二三年
加藤勝康	武生市北府本町	六四	大政翼賛會武生支部長	昭和二三年
岩堀嘉寛	武生市高瀬町	四一	大日本翼賛壮年団神山村支部団長	昭和二三年
前田栄雄	武生市幸町	四四	武生町翼賛壮年団長 南条郡大政翼賛會事務長	昭和二三年

八、武生市會議員支援者名簿

橋本茂右衛門	池上	南山由兵衛	仝 谷波久右衛門	仝 谷口正衛
山田茂治郎	東元	山本安治郎	仝 寺崎力治郎	仝 黒田文三
高橋初吉	暇	中根安市	仝 新庄義一	仝 小原重三郎
稻田石藏	旭	松井武助	仝 笠島由太郎	仝 仙田市太郎
青山清次	橘	河野善一	仝 松原吉兵衛	仝 野村元治
小野谷喜太郎	蓬萊	渥美博	仝 正光庄吉	仝 市村藤森
木倉政治郎		教員	三〇〇	
梅原梅太郎		農民	池上農民派	三〇〇
川端幸治	上市	米岡喜太郎	仝 富田久作	桜 飯田五八
白根仁太郎	蓬萊	藤岡藤助		
寺田常吉	北陸軍	小川近次郎	仝 竹内清太郎	
高木 喬	幸	服部 長夫		
関 榮治郎	五夏	吉村長助	仝 栗本依太郎	中北村 依原木喜代私

地主農民 三〇〇

農民 五〇〇

飲食店 五〇〇

四〇〇

國家地方警察福井縣本部

高島重政	北吉妻	永井孝藏	南吉妻渡辺保二 ? 弟林末太郎
西野研治		やくざ	
矢依弥一	旭	松井武助	仝笠島由太郎 仝仙田市太郎
嵯峨清藏		飲食	
林泉	幸	鈴木重雄	芳林町 辻川巖
下野村之助	緑	井上末吉	仝務田金之助 仝田中與之助
高木正二		博徒	
松戸一男	本広	橋本六三郎	
務岡茂作	有明	松坂清士	屋花 若林與三吉 仝澁谷茂一
大谷六右門	高瀬	佐野甚平	仝山崎清治郎 妙法寺 高橋茂右門
土井馬治郎	浪花	三原嘉藏	
増田五三郎	有明	森本仙太郎	仝辻利助 仝務岡平三郎
藤井恕吉	桂	佐々木利吉	仝桑野弘作 仝上田宗治郎
大沢清	本田	大広市之拓	仝斉藤仁吉 仝榊谷宗市

木下繁　露店屋

山本天右エ門　藁　山本善治　録　戎田俊典　池上　南山　隆

伊藤彦一　巻　牛馬車組合

市長を中心とした市政往来人

30万円

市長
森上喜五郎
武生市幸町
北陸タイムス新聞社長
前科四犯

財政援助

前武生市北府
料知藤勝康
大二年
一犯
製紙業
追放該當者

知人

武生市幸
前科一犯
前田栄雄
四三年
繊物会社々長
追放該當者

知人

武生市名瀬
中西敏憲
五五年
追放該當者

知人

民自党長老
福井悦治郎
七十五年
帰郷

市ギ会総会員長
尾花町電五三
料理店
福岡共作
四八年

財政援助

山甚本當社長
山本甚三郎
年

西野市長

財援

衆ギ院議員
飛島繁

財援

財援

追放該當者
武生市高瀬
岩堀嘉憲
四五年

府中山大代目
和田善治郎
和田吉春
年

武力背景

前公正会員

子分

別紙の通り

別紙の通り

前科なし
本田町
南越花提合長
ギ大阪
四一年
情

遊ギ場業
伊原忠文
尹聖紘
三八年

前科四犯
蓬高町電気九九
興行師
木下ギ
五四年

露天商約三〇名
蛭子町 木下某外

光風ろ渡辺広
三七年

谷線ろ山口竜男
二九年

市ギ
支持

元衆ギ院議員
上長谷川陽友

ハタ一合仕

上市町五五
白鷺事務所

為替
梅一治
大二年

上市町 倉辻某 35
加町 玉村某 24
〃 市橋某 24
〃 小幡精一 26
大宝村 水野某博徒
尾花町 田中某博徒

当日の中立派

上市町 倉辻某 35
旭町 玉村某 24
〃 市橋某 24
〃 小幡精〜 24
大蛍村 水野某博徒
尾花町 田中某博徒

当時の中立派

① 緑町 電三八二 木工業 下野新之助 四五
② 有明町 電五三〇 浴場 増田五三郎
③ 春日町 電七〇七 会社々弐 伊藤喜〜 三九年

市ギ 北吾妻 電四〇三 料理業 西野研二

民主クラブ 10人
① 高木正二
② 高木喬

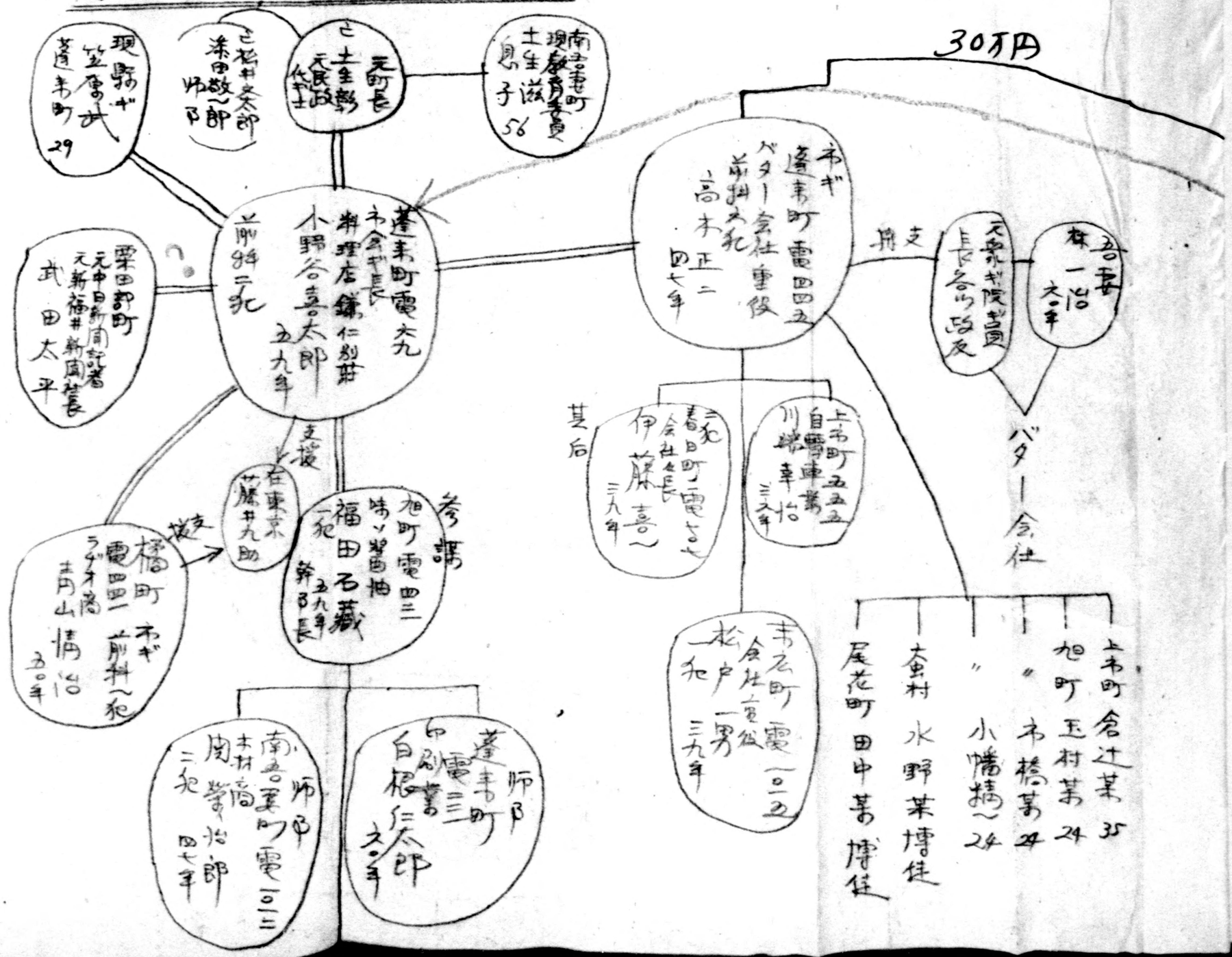
別紙の通り

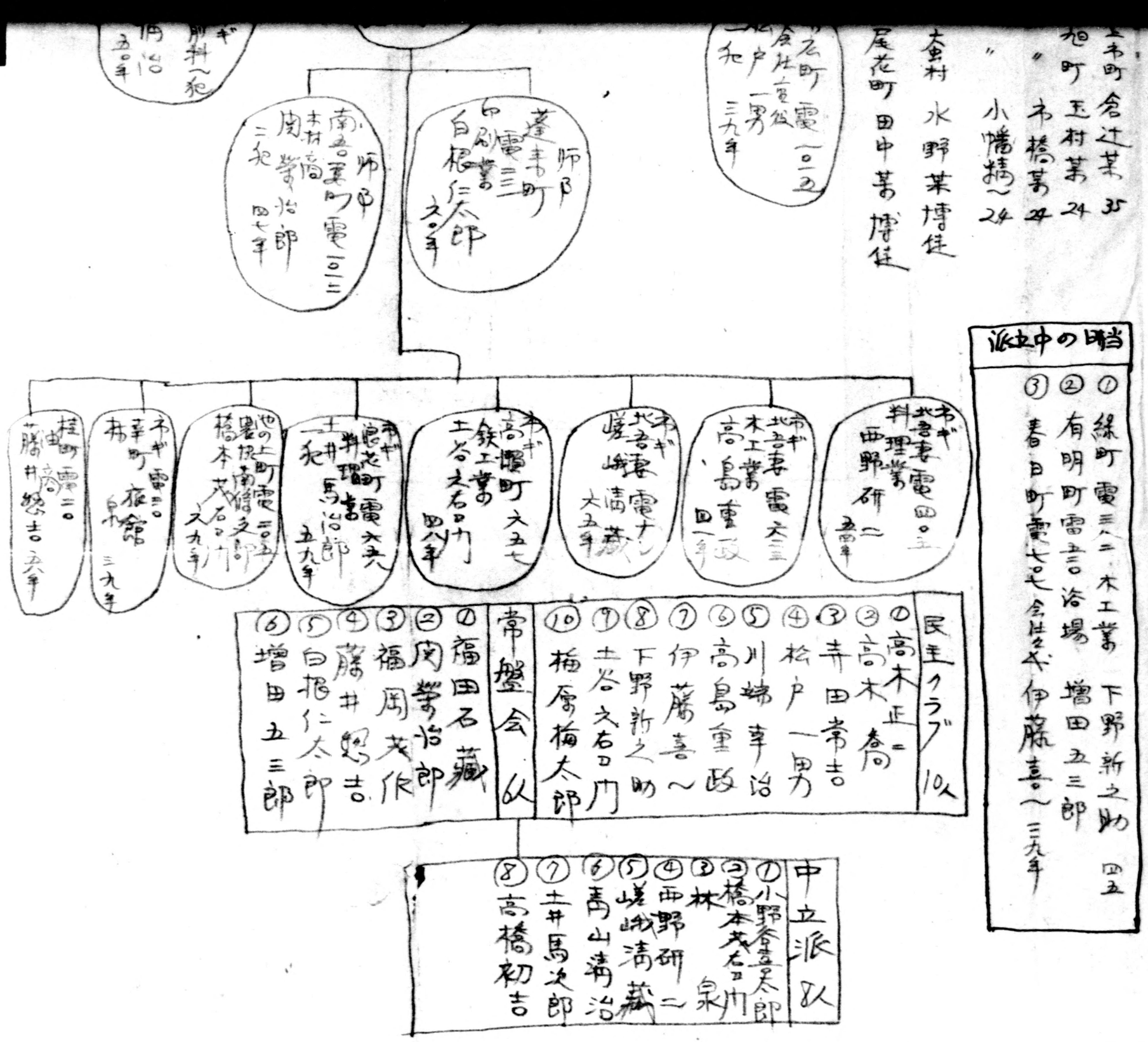
光風子渡辺広 三七年
谷緑子 山口竜男 二六年
倉橋三郎
佐藤勇 二十二年
坂詰三男 二四年
内山正榮(光男) 二四年
川西準〜 二六年
矢部有 一九年
渓井彦〜 二七年
谷口某
秋山哲雄
田中昭
柳生義成 二二年
西山太郎(李子両伍) 二九年
神戸敬治郎 二四年
倉田榮次 二八年

幸遊ギ場業 伊原忠成 尹聖紙 三八年
前科なし 本田町 南越文化協会長 大沢情 市ギ 四一年
前科四犯 蓬来町 電六五九 興行師 木下繁 市ギ 五四年
露天商約三〇名 蛭子町 木下某外
深草町 電六四一 橋業 弁田常吉 市ギ 前科一犯 六六年
広瀬町 電九八二 反製衣造 梅原梅太郎 市ギ 前科無し 四六年
前科なし 九町 電一三八 木材商 矢佐弥一 市ギ 五三年
東元町 土建業 山田楽治郎 五十年
前科なし 常久町 電三三二 市ギ 高柳初十四 木材商 四八年
前科なし 松森町 会社員 市ギ 山本文右ヱ門 五三年
市ギ 幸町 電六五四 料理店 高木喬 四七年
市ギ 前科なし 蛭子町 電三六七 元教員 木倉政治郎 四二年

睦会員
① 大沢清
② 木下繁
③ 山田渓治郎
④ 矢佐弥〜
⑤ 木倉政治郎
⑥ 山本文右ヱ門

新進会當時の勢力


30万円
市ギ 遠来町 電四四五 バター会社重役 前科六犯 高木正二 四七年
支持
元衆ギ院ギ員 長谷川政友
吾妻 株一治 六〇年
バター会社
上市町 倉辻某 35
旭町 玉村某 24
〃 市橋某 24
〃 小幡精〜 24
大蚕村 水野某博徒
屋花町 田中某博徒
上市町 五五五 自轉車業 川端幸治 三六年
二犯 春日町 電七〇七 会社々長 伊藤喜〜 三九年
其后
末広町 電一〇一五 会社重役 松戸一男 一犯 三九年
遠来町 電六九 市会ギ長 料理店鎌仁別荘 小野谷喜太郎 五九年
前科二犯
現駅ギ 笠原武 遠来町 29
元町長 土生彰 元民政代ギ士
南吾妻町 現教育委員 土生滋 息子 56
栗田部町 元中日新聞記者 元新福井新聞社長 武田太平
支援
在東京 藤井九助
参謀
旭町 電四三 味ソ醤油 福田石蔵 一犯 五九年 幹事長
支援
橘町 電四四一 ラヂオ商 青山情治 五〇年
市ギ 前科一犯
師事 南吾妻町 電一〇一三 木材商 関榮治郎 二犯 四七年
師事 遠来町 電三三 印刷業 白根仁太郎 六〇年



上市町 倉辻某 35
旭町 玉村某 24
〃 市橋某 24
〃 小幡精〜 24
蛮村 水野某博徒
屋花町 田中某博徒

市ギ 北吾妻 料理業 西野研二 五四年
市ギ 北吾妻 木工業 高島重政 四一年
市ギ 北吾妻 嵯峨 清蔵 大五年
市ギ 高堀町 鉄工業 土谷文右ヱ門 四八年
市ギ 浪花町 料理業 土井馬治郎 五九年
池の上町 裏板南條文郎 橋本茂右ヱ門 六九年
市ギ 幸町 夜館 泉 三九年
桂町 油商 藤井怒吉 五六年

師ヨ 蓬来町 電三三 印刷業 白根仁太郎 六〇年
師ヨ 南吾妻町 電一〇一二 木材商 関榮治郎 二犯 四七年

ギ 肥料〜犯 明治 五〇年

当時の中立派

① 緑町 電三八二 木工業 下野新之助 四五
② 有明町 電五三〇 浴場 増田五三郎
③ 春日町 電七〇七 会社々代 伊藤喜〜 三九年

民主クラブ 10人

① 高木正二
② 高木喬
③ 寺田常吉
④ 松戸一男
⑤ 川端幸治
⑥ 高島重政
⑦ 伊藤喜〜
⑧ 下野新之助
⑨ 土谷文右ヱ門
⑩ 梅原梅太郎

常盤会 6人

① 福田石蔵
② 関榮治郎
③ 福岡茂作
④ 藤井怒吉
⑤ 白根仁太郎
⑥ 増田五三郎

中立派 8人

① 小野谷喜太郎
② 橋本茂右ヱ門
③ 林泉
④ 西野研二
⑤ 嵯峨清蔵
⑥ 青山清治
⑦ 土井馬次郎
⑧ 高橋初吉